



開講式に臨む入学生たち。佐藤学長は千年の学校は誰もが先生であり、誰もが生徒と述べました。



法面上部に咲き誇るシバザクラを楽しむ3人。ゴールデンウィークには、大勢の来場者が訪れました。

this month
HighLight

2
今月の注目

先人たちの知恵や技によって成り立ってきた私たちの暮らしを学ぶ。

地域を学ぶ千年の学校 入学生58人を迎え10期開講

開講から10年目を迎える千年の学校は4月23日、第10期開講式を山村開発センター大会議室で举行了。合併後では最多となる58人の学生が入学しました。

第1期開講から10年目を迎える千年の学校は4月23日、第10期開講式を山村開発センターで举行了。10期の入学生は総勢58人。合併後では、最多となる入学生を迎えました。

豊かな自然に囲まれ、先人たちの知恵や技によって成り立ってきた私たちの生活。狩猟、漁業、林業、農業といった生業と、そこから生まれたしきたりや文化、神事、祭祀に至るまで、古来から受け継がれた伝統が、この町の人々に息づいています。

千年の学校は人づくり、魅力づくり、活力づくりを基本とした「循環型地域づくり」を実践する本町ならではの講座。地域を学び、その魅力を知ることで、この町で生きる誇りと自信をなくみず。

佐藤 公敏学長はあいさつの中で「今期は10年目という節目の年。千年の学校は原点に戻って活動を見直してみたい機会です。童謡のめだかの学校の歌詞の中に『誰が生徒か先生か：』とあるように、千年の学校は誰もが先生であり、誰もが生徒です。皆さんは、先人たちの苦勞に思

いをはせ、その思いを次の世代につなげてほしい。ぜひ楽しく学んでください」と入学に向けて述べました。

10期第1回の基礎講座は北営部会長（千年の学校運営部長）を講師に「千年の学校10年の歩み」をテーマとした講座を開講しました。北島さんはスライドを用いながら、古くから地域に根付く知恵や文化を再認識し、21世紀に向けて上流圏の歩むべき方向や新しい交流・人づくりを目指す千年の学校の基本理念について紹介しました。

歴史や文化を学び、これからを知る

長濱寛二郎さん（徳山）

「前を見ても未来は見えてこない。後ろを振り返ると、かえって、これからの生き方が見えてくる」。

過去の歴史や文化を学ぶことで、新しい未来を切り開いていくことが大切です。この千年の学校で、さまざまな体験や学習を通して、集った仲間たちと共に、交流しながら楽しく学んでいきたいと思ひます。



this month
HighLight

1
今月の注目

復活を遂げたシバザクラが今年も見頃を迎えました。

長島ダムに見事な絨毯 今年もシバザクラ咲き誇る

平成14年から取り組みが始まったシバザクラの植栽。シカの食害を乗り越え、再び姿を現したピンクのじゅうたんは、今年も見事に咲き誇り、来場者の目を楽しませました。

一面にピンク色のじゅうたんを敷いたかのような光景に誰もが目を奪われます。長島ダムの法面に、今年もシバザクラが咲き誇りました。一つ一つの株が昨年より一回り成長し、ピンク色に染まる面積が増え、色も濃くなったような印象を受けます。法面上半分は、ほぼ完全に株が定着したようです。

動物による「食害」対策も徹底されています。高さが2メートルほどもある柵（網）が、法面を囲むように設置されており、どこにも動物が入り込むすき間はありません。その柵を見ているだけで、どれほどの苦勞と努力の上に、シバザクラの美しさが成り立っているのかと考えさせられます。守り育てようという人々の熱意が、今の景観を形づくっています。

現地取材した4月21日は、平日とあって人影はまばらでしたが、それでも数組の観光客が訪れていました。

この日出会ったのは小泉弘さん、小泉悦子さん、増田昌子さん。静岡市から訪れたという仲良し3人グループです。シバザクラについて感想を求めると「この近くにあるミツ

バツツジを見に来たついでに立ち寄りしました。昨年このシバザクラを見たんですが、まだ少しまばらな印象がありました。でも今年は、見事に咲きそろいましたね。本当にきれい。ピンクが鮮やかです」と法面に目をやりながら話してくれました。

法面下部に目を移すと、今年3月に地元の人たちなどが植栽したシバザクラが小さな花を咲かせていました。この法面全体が美しいピンク一色に染まるのも、そう遠い未来の話ではなさそうです。

静岡市から観光で訪れた（写真右から）

小泉弘さん、小泉悦子さん、増田昌子さん

去年も同じ時期に来て、このシバザクラを見ました。山々の色も、濃い緑から若芽の黄緑色までいろんな色があり、この風景を見ただけで心が洗われるような気がします。以前は、川根に行くという道が悪くて少し抵抗がありましたが、今では道も広くきれいになり、ずいぶん来やすくなりました。以前より近くなった印象です。



ここにも、一つの物語。
広報かわねほんちょう